

第 41 回 日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 宮城県大会 要項

1. 主 旨 (公財) 日本サッカー協会及び (一財) 日本クラブユースサッカー連盟は、日本の将来を担うジュニアユース年代の少年達の、サッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的とし、連盟第 3 種加盟登録チームの全てが参加できる大会として実施する。
2. 名 称 第 41 回 日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 宮城県大会
3. 主 催 (一社) 宮城県サッカー協会
4. 主 管 宮城県クラブユースサッカー連盟
5. 日 程 グループ予選 3 月 8 日～ 5 月 10 日
東北大会決定戦及び交流戦 5 月 16 日～ 31 日
6. 会 場 松島フットボールセンター、みやぎ生協めぐみ野サッカー場他
7. 出場資格 (公財) 日本サッカー協会に第 3 種加盟登録し、なおかつ日本クラブユースサッカー連盟に 2026 年 4 月 14 日までに加盟登録されたチームであり、宮城県クラブユース連盟に正式加盟していること。
 - 1) 出場選手は他のクラブチーム及び中学校サッカー部などに二重登録されていないこと。
 - 2) 2011 年 4 月 2 日以降の出生者を対象とする。
 - 3) 選手は写真付き電子選手証を所持していること。
 - 4) クラブ申請をしている場合、同一クラブで女子チーム登録をしている女子選手の取り扱いについては、下記条件を満たした場合、最大 5 名までエントリーできる。ただし、試合出場は 11 名中最大 3 名までとする。
※女子チーム登録せず、3 種のクラブ内で、女子選手を登録している場合は、この限りではない。4) については、宮城県大会のみに適応される。
 - ① 3 種登録選手が 11 名在籍していること
 - ② 女子チーム登録選手は、当大会開催年度 4 月 2 日段階で中学生であること
8. そ の 他 本大会上位 9 チームは、第 41 回日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 東北大会に出場する資格を得る。

第41回 日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 宮城県大会 大会規定

◆ 競技方法

- 1) 参加 **23** チームを次の通り、**2025** 新人大会の順位で振り分けを行う。
 - みちのくリーグ TOP 参戦 2 チームは第 1 代表、第 2 代表として東北大会出場。
5/17 までの試合結果上位を第 1 代表とする。決定に至らない場合は抽選とする。
 - 新人大会 3 位から **8** 位は 2 つのグループに振り分ける。
各ブロック上位 2 チームずつの計 4 チームは第 3・4 代表/第 6・7 代表として東北大会出場。予選 3 位チームは東北大会決定戦へ回る。
 - 新人大会 **9** 位以下のチームを **4** つのグループに振り分ける。
グループ予選の各グループ 1 位/2 位は東北大会決定戦進出とする。
- 2) ルールは **2025 / 2026** 年度 (財) 日本サッカー協会競技規則による。
- 3) 試合時間は 70 分 (ハーフタイムは 10 分) とし、試合時間内に勝敗の決まらない場合は引き分けとする。
- 4) グループ予選の順位決定は以下のとおりとする。
 - ①勝点は、勝ち=3 点 引分け=1 点 負け=0 点とし、勝点の多い方を上位とする。
 - ②勝点と同じ場合は得失点差の多い方を上位とする。
 - ③得失点差が同じ場合は得点の多い方を上位とする。
 - ④③で得点も同じ場合は当該チーム同士の対戦結果にて決定する。
 - ⑤④でも順位決定に至らない場合は抽選とする。抽選方法は予備抽選にて引く順番を決め、その後本抽選を行う。
※新人 3 位～8 位の予選については、勝敗に関わらず毎試合ペナルティキック方式を実施し、順位決定時に勝点、得失点、得点と同率の際は、ペナルティキック方式の結果にて決定する。
- 5) 東北大会決定戦の勝敗は以下のとおりとする。
競技時間内に勝敗が決定しない場合は、5 分間の休憩後 20 分の延長戦を行い、なお決定しない場合はペナルティキック方式により勝敗を決定する。
- 6) 警告・退場
グループ予選は警告 2 枚で 1 試合出場できない。
退場を命ぜられた選手は次の 1 試合に出場できない。その後の処置については大会規律委員会にて決定する。
- 7) 選手登録用紙は、試合開始 70 分前に会場本部へ **1** 部提出する。
試合毎の登録は交代選手を含め 20 名とし、うち **9** 名までの交代を認める。
 - ①頭部の損傷による交代については
※◆脳震盪による交代についてを参照なお、各試合の登録後試合開始までの時間に、怪我等の特別な理由により登録されたメンバ

一が、当該試合へ出場することが不可能であると当該試合競技責任者が判断した場合のみ、エントリー内容を変更できる。

8) 選手交代回数の制限

- ①試合時間内の交代回数は各チーム最大3回までとする。(1回に複数人を交代することは可能)
- ②ハーフタイム、延長戦に入る前のインターバルでの選手交代は、交代回数に含まれない。
- ③延長戦には、繰り越しせず、延長戦時は、両チームともに交代回数は1回とする。

9) 選手の用具について

- ①本競技会に登録した正・副2組のユニフォーム(シャツ、ショーツ及びソックス)を試合会場に持参し、いずれかを着用しなければならない。
- ②正・副の2色については明確に異なる色とする。
- ③背番号は登録された選手固有の番号を利用し、エントリー以降の番号の変更は認めない。大会エントリーの番号を正・副ともに一致させ使用する。
- ④ユニフォームのデザイン等が異なっている場合は、事前に審判委員長に確認し認められた場合、着用することができる。(ビブスは不可)
- ⑤ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。
- ⑥アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
- ⑦アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
- ⑧キャプテンマークは、着用する。

10) ユニフォームに表示する広告は、(財)日本サッカー協会『ユニフォーム規程』に準ずる。

※日本サッカー協会ユニフォーム規程第10条において適用除外を受けた日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に所属するクラブの下部組織のチームは、当該クラブのトップチームと同一のユニフォーム広告を掲示することが認められる。但し、アルコール等、未成年チームにふさわしくない広告については除外する。

11) 試合において、出場する選手は(財)日本サッカー協会に選手登録されていること。登録の確認については、大会初戦前に自チームのエントリー表及び写真付きの電子登録証又は一覧表を持参して確認を受ける。

12) 参加資格の違反、不都合な行為があった場合の処置については、規律委員会にて決定する。

13) チームスタッフ及び選手登録は、スタッフ5名以内、選手30名以内(うち外国人選手5名以内)とする。

14) 競技規定違反

競技規定に違反があった場合、罰則等については規律委員会にて決定する。

1 5) エントリー提出期限

大会初戦 3 日前までメールで提出のこと。

宮城県クラブユース連盟事務局 E-mail miyagi.cy.2022@gmail.com

1 6) 参加費

大会参加費 22,500 円 4 月 30 日(木)締め切り

《振込先》

七十七銀行 宮町支店 (259)

普通 5029420

宮城県クラブユースサッカー連盟 理事長 小西拓也

1 6) その他

- ①ベンチへの入場は、事前に登録されたスタッフ・選手の中から、スタッフ5名以内、選手20名以内とする。
- ②チームベンチは、会場本部席からグラウンドに向かって左側ベンチをプログラム『競技日程』の左側に表記されているチームのベンチとし、対戦チームを右側とする。
- ③登録選手は、必ず全員傷害保険に加入していること。
- ④試合会場での応急処置は主催者側で行なうが、それ以降はチームにて行なうこと。

◆ 審判について

- 1) 今大会の審判は各チーム帯同により行なうものとする。審判を行う者は全て有資格者とする。
高校生以上のユース審判員については、副審なら可とする。(上級者についてはその限りではない)
- 2) 審判部より審判員を派遣する場合は、次のとおり謝礼を支払う。
主審 4,000 円、第 2・3 審 3,000 円、第 4 審 2,000 円
- 3) 帯同審判で行う場合、上級ライセンス取得者を主審とするよう該当チーム内で調整する。ただし、事前に担当割当は決定している場合は、割当通りとする。
- 4) 審判部の派遣によって、主審が派遣される場合の帯同審判については、上級ライセンス取得者が副審 1 とし、下級ライセンス取得者が副審 2 とする。
- 5) 原則的に試合開始 60 分前には、該当する審判で、下記の確認事項に沿って、打ち合わせを行う。
①対戦カード、②大会規定、③KICKOFF 時間、④試合中のサイン…etc の確認
- 6) 服装については、審判服の着用とする。

◆ 会場責任チームの役割について

- 1) 試合が円滑に行われるために最低限、下記の準備を行う。
 - ①ベンチ(スタッフ 5 名および選手 9 名分に相当する)の設置
 - ②第 4 審員の机および椅子

③試合数分の運営審判報告書(様式あり)

- 2) 安全管理や悪天候時(雷や台風など)の対応、駐車場の管理(近隣に迷惑の掛けない)について、十分に試合に該当するチーム責任者と共有する。
- 3) 公的な会場を使用する場合は、会場を使用する上での注意事項を事前に会場となる窓口と確認し、試合に該当するチーム責任者と共有する。
- 4) 試合結果について、必ず当日中に、各リーグブロック責任者に報告する。ブロック責任者は、当日中に所定の報告書にてクラブユース連盟事務局に報告する。

E-mail miyagi.cy.2022@gmail.com

◆その他重要事項

災害発生時には会場責任者、審判員のみならず、参加チームも十分に理解し、冷静で早急な対応を行う。別紙【危機事象(地震)発生時の試合運営に係わる判断について】参照。

別紙【危機事象(地震)発生時の試合運営に係わる判断について】抜粋

- ・大きい地震があった場合、関連情報(特に沿岸地域の場合は津波について)収集と情報の共有を行うこと。
- ・情報収集の方法、収集先を事前に確認しておくこと。また、パソコン・ラジオなど情報収集のための機材をあらかじめ準備しておくことが望ましい。
- ・避難場所、避難経路の確認を事前に行うこと。(施設管理者にも事前に確認すること)
- ・情報の収集、確認により安全の確保がなされるまでは、避難した場所から移動させないことを事前に打ち合わせしておく。

雷・荒天等不可抗力による中断・中止について

イ) 当該試合が後半 21 分を経過していない状況での中断の場合は、原則として試合再開を検討する。試合再開は中断時から試合を再開し、選手は中断時の選手とする。なお、試合再開が不可能な場合は次のとおりとする。

- 1) グループ予選では 0-0 の引き分けとし両チームに勝ち点 1 を与える。
- 2) グループ予選において勝ち点が並んだ場合は、不成立で得た勝ち点 1 は考慮しない(勝ち点 1 をマイナスする)。
- 3) 東北大会決定戦では中止時点のスコアで勝敗を決定する。なお、同点の場合はペナルティキック方式により勝敗を決定するが不可能な場合は抽選とする。

ロ) 当該試合が後半 21 分を経過した状況での中断の場合は、原則として試合再開を検討する。試合再開は中断時から試合を再開し、選手は中断時の選手とする。再開が不可能な場合は、グループ予選、東北大会決定戦ともにその時点の成績で試合成立とする。なお、同点の場合はグループ予選では引き分け、東北大会決定戦ではペナルティキック方式により勝敗を決定するが不可能な場合は抽選とする。

抽選は以下の通り行う。

(予備抽選・本抽選を行う。予備抽選は本部からグラウンドに向かって左側ベンチチームから先に引く。)

暑熱対策は熱中症対策ガイドラインに則り、行う。

◆脳震盪による交代について

「脳震盪による交代（再出場なし）」の追加は、実際に脳震盪を起こした、またはその疑いがある競技者が交代し、その試合の残りの時間に参加しない場合に生じる。この交代は「通常」認められた交代（または該当する場合は交代の回数）の1人（1回）として数えない。

脳震盪による交代の原則

- ・1試合において、各チームは最大1人の「脳震盪による交代」を使うことができる
- ・「脳震盪による交代で入る交代要員」が使われたならば、相手チームは、（脳震盪に限らず）いかなる理由であっても「追加の交代要員」を使う事ができる。

脳震盪による交代の手順について

- ・「脳震盪による交代」は次により行うことができる。
- ・脳震盪を受傷した、または、その疑いが生じた直後に
- ・フィールド上での診断、またはフィールド外での診断後に
- ・競技者が、その時より前に診断を受け、競技のフィールドに戻った場合を含め、それ以外で脳震盪を受傷した、または疑われるときはいつでも
- ・チームが「脳震盪による交代」を行うこととした場合、できることならば異なる色の交代カードまたは用紙を用いて、主審・第4の審判員に知らせる。

※クラブユース選手権宮城県大会では交代用紙を使用しないため、第4の審判員又は運営担当者に口頭で伝える。

- ・脳震盪を起こした、またはその疑いがある競技者は、その試合の残りの時間に出場することができない。また、できる限り、医療機関等に関係者に付き添われて行かなければならない。
- ・主審や第4の審判員または運営責任者は、相手チームに1人の「追加の交代要員」と1回の「追加の交代の回数」を使うことができることを通知する。これは「脳震盪による交代」を行うチームと同時でも、その後いつであっても使うことができる。

交代の回数

- ・「脳震盪による交代」は「通常の交代」の回数の制限とは別に扱われる。
- ・しかしながら、チームが「脳震盪による交代」を「通常の交代」に合わせて行った場合、1回の「通常の交代」としてカウントされる。

※この場合、相手チームに「追加の交代要員」と「追加の交代の回数」は追加されない。

- ・チームが「脳震盪による交代」を行った場合、相手チームは1人の「追加の交代要員」を使うことができ1回の「追加の交代」の機会を得る。この追加の交代回数は、「追加の交代要員」のためだけにのみ使うことができ、「通常の交代要員」には使うことができない。

審判員の関与

- ・競技者が交代すべきかどうか、また、「通常の交代要員」、あるいは、「脳震盪による交代要員」と交代すべきかどうかというチームの決定プロセスにかかわらない。
- ・負傷や、またはその疑いがある場合、それが「脳震盪による交代要員」を使用することに該当するかどうか判断してはならない。

- ・「脳震盪による交代」が不適切に使われたという懸念がある場合、関係機関に報告しなければならない。